



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア ターラジ! : こんにちは!)

**第4回目 7月3日(土)~7月9日(金)までのレポート**

## 7月3日(土) 市内観光第2弾



今日は、一人で行動できる日。相変わらずポルトガル語はさっぱりですが、一人の観光も、気兼ねなくなかなか良いものです。先日体験した市内観光バスを利用することで、結構観光できることが分かったので、今日はかなり気楽でした。

初めの訪問地は、Paiol Teater です。これは、1906年に建てられたもので、初めは火薬庫だったそうです。円形形式

のローマの建築様式の特徴を復元し舞台劇場にしました。クリチバの文化的変革のシンボルになったそうで1971年から活用し始められたそうです。

次の目的地は、今日一番行きたかった Tangua 公園です。先週夕方アンデルソンさんと来て、とてもきれいな景色だったので、是非、ゆっくりと見学したいと思っていたところです。右写真上は公園正面です。池の周りにはきれいな花も咲き、正面には見晴台があります。右写真下は、見晴台から見た景色で、これもまた本当に美しかったです。ここもこの公園の一部です。池の方にも降りてみましたが、なかなかの絶景でした。昼食をはさみ、4時間ぐらいゆっくりしていましたが、もっといても良いなと思うくらいのおんびりできる空間でした。



最後の、訪問地は Barigui 公園です。1972年に開園され、140万㎡の広大な公園です。自然がいっぱいあり、渡り鳥も多く生息していました。クリチバ市民が最も利用する公園とパンフレットに書いてありましたが、ジョギングをしている人、健康のために歩いている人、サッカーをしている親子、フリスビーで遊ぶ人、グライダーをしている人など、それぞれが自分のレジャーを楽しんでおり、市民の憩いの場だなと感じました。私も、ゆったりしてきました。



帰りの観光バスの中から、異様な光景を見ました。若者が道で数人の男に取り押さえられ、手を後ろに組まれ顔面は道に押しつけられていました。おそらく、ひったくりかなにかで捕まえられているところかなと思いました。安全だと思っていたクリチバでしたが、やはり注意しなくてはならないなと気を引き締めなおしました。

話は変わりますが、夜、同宿の日本人の方と彼らの知人の浄土宗のお坊さんとその知人を交え、お坊さん宅で鍋料理を食べました。みんなで買い出しに行き、調理しました。ブラジルで鍋料理を食べることができ、とっても幸せな気分でした。



## クリチバ交通事情①



①の写真的オレンジ色のバスが幹線バスで、数分おきに走っています。このバスは、3両編成で市の中心部と郊外を結び、どこまで乗っても2R\$だそうです。そして、この幹線バスを補って、路線バスが市内各地を網羅していて、生活基盤になっています。バス右側の円筒形のはバス停です。このバスについては、道路にバス専用レーンが確保され、渋滞は関係ありません。ただ、現在でも車の量はかなり多くなっている状態なので、今後、さらに車社会になってきたとき、このバスシステムでよいのかどうかはきっと問題になる時が来るのではないかと思います。

②の写真は、外国に行くとよく見かける光景ですが、交差点には交差する道路名がきちんと表示されています。この表示のお陰で、私も、市内を自由に歩くことができます。街は、かなり基盤の目状態になっており、わかりやすいです。ブラジル人は、目的地までの距離を、「〇ブロック」という言葉で表現するのも頷けます。その方が、距離で言うよりも、歩きながら交差点をいくつ分と数えていった方が現実的だからです。



③の写真的、こちらの人は、縦列駐車がとても上手です。こんな狭いところに入れることができるのかと感心します。(他の情報もありますが、また後日、報告します)

そして、道路に目をやると、一方通行の道が大変多いです。交通渋滞をなくすための方策だと思われます。ですから、5車線・6車線の道も見かけることができます。しかし、その車線の一部が駐車帯として確保されているところも多く、今後渋滞への引き金つながっていくと思われます。写真③のように、道路に縦列駐車しています。

## 7月5日(月) 教育システムと運営部署

今日から、クリチバ市の教育局のお世話になります。今日の訪問は、教育システムと運営部署です。この部署のなかで転出入に関する業務がとても興味深かったです。



①の写真は、子どもの学歴書で、転出入時に使用されます。②は①の一部拡大写真です。②を注視すると(下から2行目)、この子は豊橋 EAS の在籍を記しています。①の上部には、1

ANO	LEI Nº	SÉRIE	HORAS	%FRE.	ESTABELECIMENTO DE ENSINO
2004	9104/96	1	800	96,55	EM ARAUCARIA - EF
2005	9104/96	2	800	90	EM ARAUCARIA - EF
2008	9194/96	3	816	100	EAS "ESCOLA ALEGRIA DO SABER"
2008	9194/96	4	800	97	EM ARAUCARIA - EIEF

① 年～4年までの成績が記されており、転入学年決定の参考にするそうです。日本の学校からの編入時の対応について尋ねたところ、日本の学校から提出されブラジル領事館に署名してもらった証明書(在籍、成績)を、ブラジルで認定さ

れた通訳にポルトガル語に翻訳してもらい、この学歴書に載せることができるそうです。ただし、このポルトガル語翻訳が高価(1枚 200R\$約1万円位)で、そんなお金は誰も払わないだろうという値段でした。豊橋のように、学校での提出書類がポルトガル語で作成されていれば、そのまま、学歴書に載せることができるそうです。改めて豊橋の凄さを感じました。クリチバ市は移民の大変多い市です。その市で、日本も含め、毎年どの程度の海外からの編入児がいるか聞いたところ、30名程度と答えてくれました。ところが、今年度の日本からの編入数は、なんと52件もありました。通年であれば他国も含め30件程度なのに、いかに多いかが分かります。

次は、ブラジルの留年制についてです。クリチバ市では、一年一年を留年の対象にはせず、1～3年を一つのサイクル、4・5年を一つのサイクルとして留年を考えているそうです。そして、3年生での留年者も、留年した途中で4年になる力があると認められれば、4年に上げるそうで、留年対象者を極力作らないようにしているようでした。留年に関するサイクル制は初めて聞く話で、考えようによっては、日本は6年間と3年間のサイクル制なのだと話をしました。

さらに、教育課程に関わることとして、ブラジルでの年間授業は、最低200日、800時間と決められているそうです。授業日数はほぼ日本と同じ、授業時間は半日授業にも関わらず、最低800時間です。一日制を採っている学校は、もちろんこれよりも多いそうで、現在、クリチバ市には、179の市立学校中45校が一日制を採っているそうで、授業時間的にも日本とそれほど変わらない授業を行っていることとなります。

## 7月6日(火) 一日制学校訪問

市立学校訪問。公立と私立の格差が大きいと言われるブラジルなので、今日の訪問は、大変興味深かったです。訪問した学校の概要は次のようです。

- ・ 1～5年までが在籍。1～3年は30人学級、4・5年は35人学級。各学年3～4学級編成で、児童数538名。(クリチバ市の1日制学校は、600名以下になるように押さえている)
- ・ 8時開始。50～55分授業を8時間行う。2・3時間目の間と6・7時間目の間に20分の休憩。給食時間は1時間～1時間半確保されている。17時に終了。
- ・ 教員数は約60名(内10名は1日勤務、50人が半日勤務)、教員以外に保健室担当などのサポート9名、掃除・給食などは外部委託、教務担当5名、事務職3名、校長・副校長。総勢約100名



校舎は、普通教室棟と特別教室棟に分かれていました。

普通教室棟では、日本の授業と同じように行われ、教師の指導のもと、黒板を利用し算数・国語など通常の教科授業を行っていました。日本との大きな違いは、保健室でした。ここでは、簡単な処置しかせず、基本的には家庭に帰るか専門



の医者へ連れて行くそうで、ここでの担当は専門の養護教員ではなく、一般教員が専門に対応していました。

驚かされたのは、特別教室棟での授業でした。ここでは、通常授業では実施できないような独創性や思考力などが身につくような学習を行っていました。例えば、左の写真の部屋は、レゴを使った授業の部屋で、4人グループになり、グループの指示をする役、レゴでものを作る役、報告書を書く役、発表する役に分かれ学習するようになっていました。さらに、思考力を養うための数字パズルの部屋、環境学習の部屋、創作劇の部屋、チェスの部屋、図工の部屋、テーマに沿ったビデオ鑑賞の部屋、スペイン語学習の部屋など、知識以外の学力を多角的に養う学習が組み立てられていました。日本でも取り入れたい活動ばかりでした。

子どもたちは、午前と午後で普通教室棟と特別教室棟を入れ替え、一日の学習をし、一日8時間(それぞれ4時間ずつ)学習します。日本の教育よりも進んでいるように感じられました。

最後に、給食を紹介します。右写真が本日の給食です。鶏肉の fricasse (煮物?)、チーズとハム入りポテトサラダ、キュウリサラダ、カボチャのお菓子、ご飯、フェジャオンでした。私たちがいただきましたが、結構おいしかったです。



## 7月7日(水) 幼児学校(幼稚園)訪問

市の教育局では、幼児学校(日本の幼稚園)も管轄し、今日は、そこを訪問しました。クリチバでも、日本の都会で問題になっている待機児童が多く(2009年現在で約2000人程度)、この幼児学校も3年前に、新築開始されたそうです。

この幼児学校の概要

- ・朝、7~8時が登校時間、夕方5~7時が帰宅時間。
- ・生後3ヶ月~5歳児まで合計150名を6つのクラスに分け指導している。
- ・先生3(午前中のみ勤務)、教育者(先生より低賃金)20、教務1、園長1、委託(掃除・給食)6、



合計31名の職員

左上写真は、一番小さい子がいる3ヶ月(右奥で膝の上に乗っている青い服を着た子)~1歳児のクラスです。この部屋では18人の子どもを、3人の教育者で担当していました。どのクラスも同程度かそれよりも多い子どもを3人の教育者で対応する体制でした。1歳8ヶ月~2歳5ヶ月のクラスからは、「本を読む」「遊ぶ」「お話し」「お絵かき」の4カリキュラムを巡回させ、指導しているそうです。



左下写真は、一番大きい子のいる5歳児クラスです。このクラスは、32人の子どもを先生と教育者の2人で担当していました。5歳児の多くは、貼り紙で昆虫を描いていました。一番小さい子たちが、数年後にはこのように成長するのだと感心しました。

子どもたちの給食の様子も参観しました。3歳児からは、右写真のように、自分の分を自分で取るバイキング形式でした。上手にできるのかと思いましたが、どの子も結構うまく自分の皿に盛りつけていました。自分のことを自分でするという習慣をつけるためにもとても良いことだと思いました。話によると、この方式にすることで、子どもたちの食事の量が増えたということでした。



小学校との連携について尋ねたところ、近くの小学校への見学を行ったり、小学校入学時に、学歴書(クリチバ市教育局で見たもの)を作成し、市教育局を通して小学校へ送ったりしているそうです。また、市の教育事務局内でも幼児教育部門と小学校教育部門が連携しているとのことでした。

今日の幼児学校は、小学校跡地を利用し建築されたということで余裕もあり、新しく、とても良い施設でした。ただ、クリチバ市内からかなり遠くにあるこの学校を選定した理由が、今後開始される幼児教育学校の手本にしたいと市が考えているほどの学校だったようで、クリチバ市としても一番おすすめの幼児学校のようなので、ですから、すべての幼児学校が今日の幼児学校と同様だと思うのは早計かもしれないとも思いました。

## 7月8日(木) 特別支援学校訪問

今日は、特別支援学校を訪問しました。クリチバ市には、州立、市立、私立をふくめ63の特別支援学校があるそうです。今日はその内の一つで、知的障害者を対象にした学校でした。ちなみに、特別支援児童への対応は、ブラジルでも日本同様、通常学級で対応・特別支援学級で対応・特別支援学校で対応の3段階になっているそうです。本校の概要は次の通りです。



- ・2006年開校
- ・0～30歳までを対象にし、0～3歳は子どもへの本能刺激(上写真、専門家が障害のある幼児に刺激を与えている)、3～5歳は幼児教育、6～16歳は教育対応、14～30歳は専門学習(左写真)を行っている。
- ・午前の部：7時45分～11時45分、午後の部：13時10分～17時10分の2部制をとっている。

・先生64、事務6、医療・掃除・給食関係は外部委託で40人、合計110人の職員

ここでの大きな特色は、同じ建物内に脳神経科・精神科・視力関係の医者・聴力関係の医者が常駐し、0～3歳の子を専門に担当するだけでなく、他の子たちへの医療的対応も行っているということが素晴らしいと思いました。また、隣接した施設として、近隣学校で特別支援教育の対象になりそうな子の診療(相談)を行う市立特別支援対応センターが併設されていることでした。特別支援学校とセンターが連携しながら、特別支援の必要な子への対応を行っているようでした。

訪問時間帯が悪かったのか、明日の Festa Julina(7月のお祭り)の準備のためか分かりませんが、基礎教育部の授業風景を参観することができなかつたのが、とても残念でした。

## 民族フェスティバル Teatro Guaira

7月1日から Teatro Guaira(6月26日の観光記録で紹介した劇場)で、民族フェスティバルが行われており、各国の民俗芸能が各国1日ずつ披露されていました。今日が日本の日で、ホテルの奥様も舞踊で出演するので、夜8時半からでしたが見に行きました。

舞踊、民部、太鼓、よさこいソーラン、琉球国祭り太鼓など、17の演目が披露されました。舞踊の方々は、かつらもかぶり、プロかと思わせるほどでした。また、太鼓は、お腹に響き渡り、その音色も統一され、どれもこれも見応えのあるものでした。2時間超のステージでしたが、時間を忘れるほどの腕前で、かなりの練習を積まれたのだと感心しました。こうやって、日本の伝統を守り続けている人がブラジルにもいることを改めて感じさせられました。



## 7月9日(金) 半日制学校2校訪問

火曜日には1日制学校を訪問しましたが、今日は、半日制学校を2校訪問しました。

午前の訪問校は、2008年の新設校でした。これまで見た学校とは異なり、廊下や他のスペースも余裕をもたせてあったり(右下写真)、各教室にテレビが設置されていたり、これからのブラジルの学校建築のモデルになると思われる学校でした。



左写真にある遅進児指導のクラスは興味深かったです。半日制のためできるシステムだと思いました。つまり、今は、午後の授業に

来る子どもたちの中で授業進度についていくことができない子を、午前中から登校させ学習していました。1日制だと、遅進児指導の時間はなかなか確保ができません。半日制の大きなメリットだと思いました。

特筆すべきことは、職員構成の中で、様々なことを手伝う(支援する)職員がいる(5人)ことです。20分放課時の子どもの面倒はこの人たちが行い、先生方は完全休憩。この方たちの仕事は、それ以外に、先生方の補助、先生では対応できないような諸々の仕事をします。かなり給料は安い(ブラジルの最低賃金程度)ですが、1日勤務の人が5人いてくれば、学校は大助かりだと思いました。



午後からは、5～8年生が勉強している学校を訪問しました。午後は生徒約450人、教員34人、午前は児童(幼稚園～4年)476人、教員32人の規模です。ただ、びっくりすることは、子どもも教員も午前と午後で入れ替わるのに、左写真に写っている校長先生は一日中校長だそうです。なんだか小学校と中学校2校の校長をしているようなものだと思います。数年前までかなり荒れていた学校で、毎日何か問題が起こっていたそうです。問題行動の中身については、ドラッグ以外は、日本と同じで子ども同士の暴力、器物破損、教師への暴言(対教師暴力はないそうです)などです。ただ、今は生徒指導対応の先生が入ったこともあり落ち着いていると言うことです。ただ、校内の状況は、右写真のように落書きがそのまま、ガラス破損もそのまま、授業風景も何となく落ち着きがない(冬休み前日、私の訪問などの理由かも)気がしました。それでも、あるクラスで、子どもたちに学校は楽しいか聞いたところ、どの子も元気よく手を挙げて「楽しい」と答えていました。先生と子どもとの関係はとてもうまくいっている印象も同時に受け、そういう点では良い学校だと思いました。

